

第4号ができました。今回ご紹介するのはシーカヤックのクラブ「海面クラブ」の代表の尾形潤さんです。海面クラブの活動基地「海面ハウス」は九州でも有数のロケーションにあり、四季を通じてシーカヤックが楽しめるとのこと。シーカヤックが好きになって、クラブを作ったいきさつや、その魅力を伺いました。



編集後期 今回は海面ハウスの尾形さん取材させていただきました。何って自然体で、リラックスした自然体の大人たちが、ここにこしなながら、シーカヤックという道具で、自分のペースで遊んでいらっやいました。その中心でニコニコしながら自然体で、クラブのメンバー皆さんが安全に快適になるようお世話していらっやったのが尾形さんでした。本日に居心地が良かった。6回訪問してシーカヤック体験もしてしまいました。味わったことのない新しい感覚でした。海上は気持ちいいです。
(取材・撮影・編集・デザイン 嶋崎 達哉)

インドア生活者ができる唯一のアウトドアスポーツ、それが「シーカヤック」。根性もチームプレイも要りませんが、すべて自己責任です。

今津にあるシーカヤッククラブ「海面クラブ」のクラブハウス

海面ハウス

オーナー 尾形 潤



も合っているし、自然が相手と奥が深いスポーツなんだそう。

自分でクラブを開業

尾形さんが50歳になり、シーカヤック歴も10年になろうとする頃、リーマンショックのあおりを受けて、シーカヤック関係のクラブやショップがどんどん潰れていったそうです。尾形さんの属するお店も無くなり、新しいお店を捜していたそう。

その頃、自分がお店を運営するならああるのにと、こころざしをだそうとか、いろいろ思うことがあったそう。そうしていろいろうちに、自分でシーカヤックのクラブをやってみたいという想いがふつふつと湧きあがってきたそう。家族と相談の上、クラブのお店を開業するための場所探し

尾形さんのシーカヤック初体験。

尾形さんは以前サラリーマンをされていて40歳のとき、シーカヤックに出会ったそう。シーカヤック経験者の友人に誘われ、生の松原にあったシーカヤックショップで、シーカヤックに初めて乗ったそう。友人が、「シーカヤックなんて誰でも乗れるし簡単だよ。俺なんか初めて乗って能古島を軽く一周してきたんだから。」と言うので、海岸で、簡単なレクチャーを受けてすぐに、その友人の後

ろから、能古島一周のコースにチャレンジしてしまっただけ。友人に負けたくないという気持ちで、めいっばい力を入れて漕いでしまったそう。やっと能古島を半周し、帰路に向かったのですが、体力が段々無くなってく

るし、息が上がって腕に力が入らないし、正面に見えている生の松原がちっとも近づいてこなかったそう。海の上では自分が漕がないことにはどうしようもなく、誰も助けてはくれません。軽く考えてシーカヤックに乗ったことを後悔し、へとへとに疲れきって、や

つとこのことで、岸にたどり着いたそう。自分の中では悔しいやら情けないやら二度とシーカヤックになんかに乗るもんかと思っただけ。

そして翌日になり二日経ち三日経ちすると、全身が筋肉痛の中、あの体験は何だったのだろうと思いつくと、能古島一周をやり遂げた達成感や、必死で全てを忘れてパドルを漕ぐことに集中していた充実感がこみあげてくるし、情けない状態で見えていた風景までがスローな映画の美しい風景のように思いついてきて、パドルを

画が動き出したそう。

どういう船で渡れるか、どういうコースにするか、渡航メンバーを誰にするか、渡航許可をもらえるのか色々な具体的問題があらがってきたそう。それらのことをひとつひとつ、何度も何度もメンバーさん同士が話し合っただけでクリアしていったそう。

尾形さんの誇り

現在約70人のメンバーがいっしょにやるそう。カヤックの国体の選手から、70代の高齢の女性、おじいちゃんとお孫さん、ご夫婦で来られている方と、メンバーの構成も様々ですが一般のお父さんや福岡に単身赴任で来られているお父さんが意外と多いそう。

シーカヤックに乗るばかりでなく、ただおしゃべりを楽しむために海面ハウスに来られている方も多いそう。

海を見ながら風に吹かれてニコニコ笑顔の尾形さんを中心にいろいろしゃべって、リラックスしている、時間がどんどん過ぎていきます。カヤックの出入れもメンバーさん同士があうんの呼吸で協力しあっています。尾形さんはそういう紳士的なメンバーさんたち、のいるクラブのオーナーであることが自分の誇りだとおっしゃっていました。

もっと自然を楽しんで

尾形さんから「最近日本人は自然を求めなくなっていると思いま



を始めたそう。自分にとつては一番愛着のある能古島の周辺の場所をあちこち訪ね、2年ほど探し続け、地主さんと交渉して、現在の今津の場所を貸していただけるようになったそう。



そしてついに企画がスタートして4年後の2006年に、タンデム(二人乗り)のシーカヤック12隻、このクラブだけでなく全国から集まった24人が博多から韓国釜山まで渡る旅をスタートしたそう。初心者からベテランまで参加して、初心者にとってはハードな旅となりましたが、ついに釜山までの渡航に成功したそう。

シーカヤックのクラブの運営をしていると、いろいろなメンバーさんが増えて、スピードを競うレースに出たいとか、奄美大島で漕いでみたいとか、いろいろなニーズが増えてきたそう。そんな二つのひとつに朝鮮海峡を越えて韓国にシーカヤックで渡りたいというのがある。まさに海面ハウスは九州の北西部に位置し、邪馬台国の卑弥呼の使者が渡ったコース上にあり、朝鮮海峡を渡ることにはメンバーさんたちが大いにロマンを感じ、この企

海面ハウスさんお薦めの糸島でのイベントです

あしづね 葦船学校 in 糸島

●7月19・20日「葦船作りと乗船」
●7月21日「葦船体験祭り」

詳しい内容は「NPO法人いとなみ」のブログ
または facebookをご覧ください

NPO法人いとなみ で検索

お問い合わせ・お申し込みは: 080-5081-1680